

Adobe LiveCycle Enterprise Suite 3 (ES3)

2012 年 3 月 13 日

© 2012 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

このファイルには、製品のドキュメント作成時には記載できなかった重要な情報が含まれています。Adobe® LiveCycle® Enterprise Suite 3 (ES3)を実行する前に、この情報を確認してください。

関連するリリースノート:

- [Correspondence Management Solution](#)
- [LiveCycle Designer](#)

目次

- [全般](#)
 - [インストールに関する問題](#)
 - [インストールに関する一般的な問題](#)
 - [Configuration Manager のインストールに関する問題](#)
 - [JBoss のインストールに関する問題](#)
 - [WebLogic のインストールに関する問題](#)
 - [アップグレードに関する問題](#)
 - [パフォーマンスに関する問題](#)
 - [管理](#)
 - [Content Services \(非推奨\)](#)
 - [Digital Signatures](#)
 - [出力](#)
 - [PDF Generator](#)
 - [Process Management](#)
 - [Rights Management](#)
 - [Workbench](#)
 - [Workspace](#)
 - [Assembler サービス](#)
 - [電子メールプロバイダー](#)
 - [Launchpad](#)
 - [マニュアル](#)
 - [サードパーティソフトウェアに関する注意事項](#)
-

全般

Adobe Enterprise Readiness Tool(ERT)

Adobe Enterprise Readiness Tool(ERT)は、Adobe Digital Enterprise Platform(ADEP) 10.0 リリースで導入されました。このため、[ERT ダウンロードサイト](#)やツールには、ADEP の用語が含まれている場合がありますが、ERT は LiveCycle ES3 とシームレスに連動し、期待どおりの結果を得ることができます。

CRX 2.3 の可用性

DVD インストールメディアおよびダウンロードされた LiveCycle ES3 用の ESD には、JCR 2.0 テクノロジーに基づいたコンテンツリポジトリである CRX 2.3 が、\CRX ディレクトリに含まれています。CRX 2.3 をデータストレージシステムとして使用できます。使用条件は、LiveCycle ES3 Supplemental Terms and Conditions に準拠します。CRX 2.3 の使用については、<http://dev.day.com/docs/en/crx/current.html> を参照してください。

非推奨の Content Services

アドビでは、Content Services ES のお客様に、Content Repository への移行をお願いしています。Content Repository は、モジュール化された最新の CRX アーキテクチャ上に構築されており、この CRX アーキテクチャは、アドビによる Day Software の吸収合併により利用可能になりました。Content Repository は LiveCycle Foundation に含まれ、LiveCycle ES3 リリース以降で利用できます。

非推奨のガイド

2012 年 3 月 10 日から、アドビでは LiveCycle のガイド機能を非推奨とします。ガイド機能は、アップグレード目的でのみ利用可能で、2 つのメジャーリリース後の製品から削除されます。

[参照番号 2900687] - 『*Programming with LiveCycle*』に記載されているすべてのパスが、更新されたわけではありません。クイックスタートのほとんどは、クイックスタートの実行に必要なクライアントライブラリファイルの新しいパスの場所を反映するように更新されています。ライブラリファイルの古い場所は次のとおりです。

```
<install directory>/LiveCycle_ES_SDK/client-libs/common
```

ライブラリファイルの新しい場所は次のとおりです。

```
<install directory>/sdk/client-libs/common
```

[参照番号 2853002] - Adobe Central Pro Output Server のユーザーがステージ化された方法で Output サービスへ移行することをサポートするために、LiveCycle ES2 には Central Migration Bridge サービスが導入されています。Central Migration Bridge サービスは、このリリースでも引き続き利用できますが、次のリリースでは削除される予定であることに注意してください。

[参照番号 2877920] - アドビでは、Content Services ES のお客様に、Content Repository への移行をお願いしています。Content Repository は、モジュール化された最新の CRX アーキテクチャ上に構築されており、この CRX アーキテクチャは、アドビによる Day Software の吸収合併により利用可能になりました。Content Repository は LiveCycle Foundation に含まれ、LiveCycle ES3 リリース以降で利用できます。

[参照番号 2608634] - LiveCycle ES2 フォントバンドルの変更 - LiveCycle ES2 Service Pack 1 に含まれているフォントには、細かい変更点がいくつかあります。Adobe Hebrew、Adobe Arabic、Adobe Thai の各フォントに、一部の文字の形をわずかに改善するヒンティングの変更が含まれています。ただし、文字の形が 1 ピクセル変わったとしても、行やページの間隔に影響はありません。これら 3 つのフォントファミリーは、新しく改善されたヒンティングを反映してサイズが大きくなりました。ヘブライ語とタイ語のフォントはおよそ 15% 大きくなり、アラビア語のフォントは 60% 大きくなりました。これはフォント最適化エラーによるものであり、今後のリリースで解決する予定です。これらのサイズの影響は、フォントがドキュメントに埋め込まれているときにのみ確認できます。

[参照番号 1503619] - フォーム内のドロップダウンリストを開く - レンダリングされたフォーム内のドロップダウンリストに、開くことのできないデータ項目が含まれる場合は、Adobe Reader® または Adobe Acrobat® で次の操作を実行する必要があります。編集／環境設定／フォームを選択し、「フォームデータを一時的にディスクへ保存」の選択を解除します。

インストールに関する問題

インストールに関する一般的な問題

[参照番号 1935364] - Workbench をインストールするときに、次のエラーがログに書き込まれる場合があります。このエラーは Workbench のインストールと機能に影響を与えないので、無視してもかまいません。

```
[SEVERE]:Parameter, C:\Program Files (x86)\Adobe LiveCycle Workbench ES3\plugins\com.adobe.lcads_10.0.2.v201202190011\hightide\resources\jta.properties, is not an existing file
```

[参照番号 2914751] - 不完全なアンインストール - LiveCycle をアンインストールしても、<LiveCycle root> にある **jre/** ディレクトリは自動的に削除されません。LiveCycle を完全にアンインストールするには、このディレクトリを手動で削除する必要があります。

[参照番号 2906739] - 「Java VM を読み込んでいるときに Windows エラー 216 が発生しました」というエラーメッセージは、32 ビット版のオペレーティングシステムで 64 ビット版のインストーラーを実行していることを示しています。この問題を回避するには、64 ビット版のオペレーティングシステムに切り替えるか、32 ビット版のインストーラーを入手してください。

[参照番号 2903098] - インストールパス内の GB18030 文字セット - LiveCycle インストーラーのインストールフォルダーを選択画面では、GB18030 文字を含んでいるインストールパスを参照して指定する場合、GB18030 文字は疑問符(?)に変換されます。この問題を回避するには、パスを参照して選択する代わりに、パスをコピーしてテキストフィールドに貼り付ける必要があります。

[Ref 2696261] - 64 ビットシステム上の Eclipse への Workbench のインストール - 64 ビット版のオペレーティングシステム上の Eclipse に Adobe LiveCycle Workbench 9.5 をインストールするには、32 ビットバージョンの Eclipse を使用する必要があります。

[参照番号 2615315] - 「パッケージされた JDBC モジュール」オプションを WebLogic で使用する際のフォームレンダリングの問題 - WebLogic 上で Adobe LiveCycle Configuration Manager を使用して LiveCycle ES2 のインストールを設定するときに、「*パッケージされた JDBC モジュール(データソースをセキュリティで保護)」オプションを使用した場合、フラグメントされたフォームについてフォームレンダリングの問題が発生することがあります。

データソースをセキュリティで保護するには、次の TechNote で説明している代替の方法を使用します。http://kb2.adobe.com/jp/cps/844/cpsid_84435.html

[参照番号 2471042] - install.bin の起動が Red Hat Enterprise Linux で失敗する - Red Hat® Enterprise Linux を実行するマシン上で LiveCycle ES2 DVD から install.bin 実行ファイルを実行しようとする、`「/bin/sh:bad interpreter: Permission denied」` というエラーメッセージが表示されます。このエラーは、Red Hat Enterprise Linux が `noexec` 権限で DVD を自動マウントすることにより発生します。この問題を解決して LiveCycle ES2 のインストールを開始するには、次の手順を実行します。

- 次のコマンドを入力して、ドライブのマウントを解除します。`umount /media/CDROM`
- 次の操作を実行して、ドライブを手動で再マウントします。
 - `/media` フォルダーの下に `CDROM` という名前のディレクトリを作成します。`mkdir /media/CDROM`
 - `/media/CDROM` フォルダーに LiveCycle ES2 DVD をマウントします。`mount /dev/hda /media/CDROM`
 - DVD をマウントしたディレクトリに移動して、`./install.bin` を実行します。\\\\

[参照番号 1675320] - LiveCycle ES2 ESD ダウンロードの MD5 暗号化 - UNIX® 環境または Linux 環境では、MD5 暗号化のユーティリティを使用して、ESD ファイルが

正常にダウンロードされたことを確認できます。チェックサム番号は、アドビのプレリリースダウンロードサイト(<https://jp.prerelease.adobe.com/login.html>)で公開されています。

[参照番号 2933321] - LiveCycle をインストールするとき、日本語の使用許諾契約に含まれる 2 つのリンクが正しく示されません。LiveCycle の使用許諾契約ページでは次のように解釈してください。

- 1.7 項のエンドユーザー使用許諾契約書に関するリンクは、http://www.adobe.com/go/eulas_de_jp を示していますが、これは、http://www.adobe.com/go/eulas_jp が正しいリンクです。
- 13.4 項のサードパーティのソフトウェアに関するリンクは、http://www.adobe.com/thirdparty_jp を示していますが、これは、http://www.adobe.com/go/thirdparty_jp が正しいリンクです。

Configuration Manager のインストールに関する問題

[参照番号 3126856] - LiveCycle インストーラーを Linux 上の WebSphere DVD から直接実行したときに、インストール完了画面で「Configuration Manager を起動」を選択して「完了」をクリックしても、Configuration Manager が起動されません。

この場合、`[LiveCycle root]/configurationManager/bin` ディレクトリの `ConfigurationManager.sh` スクリプトを実行して、Configuration Manager を手動で起動する必要があります。

[参照番号 2926771] Content Services (非推奨) EAR を JBoss 4.2.1 および JBoss 5.1 にデプロイする際の問題を次に示します。

1. JBoss 5.1 用に設定された Content Services EAR ファイルを JBoss 4.2.1 にデプロイすると、例外が発生し、デプロイメントが失敗します。詳しくは、[TechNote](#)を参照してください。
2. JBoss 4.2.1 用に設定された Content Services EAR ファイルを JBoss 5.1 にデプロイすると、エラーがログに書き込まれます。詳しくは、[TechNote](#)を参照してください。

[参照番号 2905628] - Configuration Manager を使用して Content Services (非推奨) を設定する際の問題 - Configuration Manager の実行時、Content Services のファイルサーバーの設定と詳細設定画面で指定したデータは、Content Services EAR ファイルに取り込まれます。ただし、Content Services の設定画面で「ファイルサーバーを設定」と「詳細設定」オプションの選択を解除しても、そのデータは削除されません。

回避策として、Content Services のファイルサーバーの設定と詳細設定画面ですべてのオプションの選択を解除してから、Content Services の設定画面で「ファイルサーバーを設定」と「詳細設定」オプションの選択を解除します。

[参照番号 2916035 - Adobe LiveCycle 10 Connecotr for ECM を設定する際のエラー - Linux オペレーティングシステムで IBM Content Manager、IBM FileNet、EMC Documentum、Microsoft Sharepoint 用のコネクタを設定するときに、次のエラーメッセージが表示され、セキュリティキーの値が null であることを示す記録が Configuration Manager のログに書き込まれる場合があります。

Adobe UM Preferences に対する Adminui 設定が失敗しました

このエラーメッセージは、コネクタが正しくインストールされていないことを示しています。この場合、コネクタ用の DSC を、Workbench を使用して手動でインストールするか、http://cookbooks.adobe.com/post_Quickly_deploying_a_component_on_LiveCycle_Server-19146.html の説明に従ってインストールします。

コネクタ用の DSC をインストールした後で、Configuration Manager を使用してコネクタを設定します。

[参照番号 3117905] - LiveCycle インストーラーから Configuration Manager を起動できない - AIX 6.1 オペレーティングシステムに LiveCycle をインストールした場合、LiveCycle インストーラーのインストール完了画面で「**Configuration Manager を起動**」を選択し「完了」をクリックしても、Configuration Manager が起動されません。

[LiveCycle root]/configurationManager/bin ディレクトリの ConfigurationManager.sh スクリプトを実行して、Configuration Manager を手動で起動する必要があります。

[参照番号 2701430, 2696040] - Configuration Manager を使用して DSC コンポーネントをデプロイするとき、次のエラーは無視できます。

Configuration Manager を使用して DSC コンポーネントをデプロイするときに、「Mobile Connector Service not found」というエラーメッセージがサーバーログに書き込まれる場合があります。このエラーは、技術的な問題や異常を示すものではないため、無視して設定を続行してかまいません。

[参照番号 1574469] - ユーザーが Configuration Manager を途中で終了しても EAR ファイルのデプロイメントが継続する - Configuration Manager によって IBM® Websphere® JACL デプロイメントスクリプトの実行が開始されると、デプロイメントが完了する前に Configuration Manager を終了またはキャンセルしても、デプロイメントを中止することはできません。製品の EAR ファイルは正常にデプロイされるので、ユーザーによるアクションは必要ありません。

JBoss のインストールに関する問題

[参照番号 2823465] - Content Services EAR 起動時のエラー - Content Services EAR をデプロイした後で Content Services を起動すると、次のエラーが JBoss ログに書き込まれます。

ERROR [org.apache.myfaces.shared_impl.config.MyfacesConfig] Both MyFaces and the RI are on your classpath. Please make sure to use only one of the two JSF-implementations.

ただし、このエラーは Content Services の機能には影響しないので、無視してもかまいません。

[参照番号 2427415] - 日本語版の LiveCycle ES2 の設定画面で JBoss の問題により不適切なテキストが表示される - 日本語版の Configuration Manager を実行しているとき、データベースの初期化画面に「?????」というステータステキストが表示されます。これは次のユーザーフォーラムで議論された JBoss Web に関する既知の問題です。
<http://www.jboss.org/?module=bb&op=viewtopic&t=103446>

WebLogic のインストールに関する問題

[参照番号 1489967] - Oracle データベースに対するデータベースユーザー名の制限 - WebLogic と Oracle® データベースを使用する場合は、データベースユーザー名の先頭の文字に数字を使用したり、ユーザー名内にハイフン(-)を使用したりできません。また、ユーザー名には「Cluster」などの予約語を含めることもできません。この制限を守らないと、データベースは正常にブートストラップされません。

[参照番号 2995147] - 情報メッセージ NamingHelper I org.hibernate.util.NamingHelper getInitialContext JNDI InitialContext properties: {} が、ログファイルに無数に追加されます。一定の間隔で実行されるジョブによって、このメッセージがログファイルに追加されます。このメッセージを回避するには、次の手順でログレベルを変更します。

1. WebSphere のナビゲーションツリーで、**Servers / Server Types / WebSphere Application Servers** をクリックします。
2. 右側のウィンドウに表示されているアプリケーションサーバーをクリックします。
3. **Troubleshooting / Change Log Detail Levels** をクリックします。
4. 「**Runtime**」タブをクリックします。
5. 「General Properties」で、「**Save runtime changes to configuration as well**」を有効にします。
6. 「Components」リストで、org.hibernate.* パッケージに移動します。パッケージをクリックして選択し、「**Message and Trace Levels**」をクリックします。表示されるリストから「**warning**」を選択します。
7. 「**Apply**」をクリックします。
8. クラスタ内のすべてのノードについて、手順 1 ~ 7 を繰り返します。

アップグレードに関する問題

アップグレードする場合は、[インストールに関する問題](#)の節も参照してください。インストールに関する問題も、アップグレードのプロセスに該当します。

[参照番号 1935364] - LiveCycle コンポーネントをデプロイする際の例外 - Configuration Manager を使用して LiveCycle コンポーネントをデプロイする場合、いくつかの例外が発生し、ログに書き込まれます。これらの例外は、無視してかまいません。

[参照番号 2916395] - 32 ビットマシン上の JBoss 4.2.1 で自動インストールを LiveCycle にアップグレードすると、サーバーの起動時にメモリ不足エラーがログに書き込まれます。これは jdk 1.6_26 に関する既知の問題です。回避策としては、サーバーを起動するときに jdk 1.6_24 を使用します。Adobe_JAVA_HOME 環境変数には、必ず同じ値を設定してください。

パフォーマンスに関する問題

[参照番号 3101379] - パフォーマンスの低下 - 例外「com.adobe.idp.DocumentError: java.io.IOException: Access is denied」の修正によって、わずかなパフォーマンスの低下が発生する可能性があります。許容できないほどのパフォーマンスの低下が発生した場合は、JVM フラグを `-Dcom.adobe.idp.FileCollector.SecondScan = false` に設定します。

注意: このフラグは Linux マシンに対しては推奨されず、サポートされません。

パフォーマンスに関する一般的な問題

[参照番号 1841089] - クラスタおよび DB2 データベースでの Quartz スケジューラーに関する問題 - DB2 を実行しているクラスタでは、継続して読み込みを行うと、Quartz スケジューラーによってサーバーに障害が発生することがあります。この問題は、Quartz テーブルでバックアップが開始されてデッドロックが発生することが原因です。この問題を解決するには、JVM 引数に次のプロパティを追加します。-

```
Dorg.quartz.jobStore.driverDelegateClass=org.quartz.impl.jdbcjobstore.StdJDBCDelegate  
-Dorg.quartz.jobStore.lockOnInsert=false
```

管理

[参照番号 2919758] - Safari 5.0.5 以前では、Tab キーを押してもカーソルは管理コンソールの「ログイン」ボタンに移動しません。このため、マウスを使用して「ログイン」ボタンをクリックすることをお勧めします。

[参照番号 3117900] - ヘルスモニターを使用して一時停止させたジョブは、管理コンソールで再開に失敗します。

[参照番号 3000575] - 大文字と小文字を区別した検索 - Oracle 11g をデータベースとして使用している場合、管理コンソールのサービスの管理ページでサービスを検索すると、検索では大文字と小文字が区別されます。例えば、管理コンソールを開いて、サービス／アプリケーションおよびサービス／サービスの管理 をクリックし、「distiller」という名前ですべてのコンテンツをフィルタリングしようとする、結果に何も表示されません。「Distiller」と入力すると、「DistillerService; 1.1」が結果として返されます。

Content Services (非推奨)

[参照番号 2732114] - ACP の書き出し機能を使用した不完全な書き出し - スペースから大きなコンテンツセットを書き出すときに作成されたパッケージ(.acp または .zip) は、不完全なパッケージである場合があります。また、このようなパッケージには、書き出されたコンテンツの一部しか含まれていない場合があります。さらに、大きなコンテンツセットの書き出しが開始される際に、アプリケーションサーバーが応答しなくなることもあります。このような状況では、場合によっては、サーバーを再起動する必要があります。

正常に書き出すことができるコンテンツのサイズは、システム設定に応じて異なります。回避策として、コンテンツを小さなサイズのセットで書き出すようにします。

[参照番号 2723531] - Adobe LiveCycle ContentSpace 9 の UI または Content Services の API を使用して、100 文字を超える名前のユーザーまたはグループに権限を割り当てようとする、com.mysql.jdbc.MySQLDataTruncation エラーが返されます。この問題を解決するには、ユーザーの共通名またはグループのグループ名を短縮します。

[参照番号 2697573] - ACP を読み込む際の例外 - DB2 データベース用の ContentSpace を使用して Alfresco コンテンツパッケージ (ACP) を読み込むときに、SQL 例外が発生します。この例外を解決するには、次の手順を実行します。

1. IBM コントロールセンターを使用して DB2 データベースインスタンスに接続します。
2. IBM コントロールセンターで、「All Databases」を展開して、該当するデータベースインスタンスを右クリックします。コンテキストメニューから「Configure Parameters」を選択します。
3. データベースインスタンス用の秘密鍵証明書を使用してログインします。
4. Database Configuration ダイアログボックスで、「Logs」をクリックします。
5. 「Logs」ツリーで「LOGSECOND」に移動して、値を 240 以上の数値に変更します。LOGPRIMARY と LOGSECOND を足した数値が 256 以下であることを確認します。
6. 「Apply」をクリックして、「OK」をクリックします。
7. データベースインスタンスを再起動します。

[参照番号 2654394] - 更新時に Content Services EAR ファイルのデプロイメントが失敗する

重要:この項目は、LiveCycle ES2 または LiveCycle ES2 Service Pack 1 から LiveCycle ES2 Service Pack 2 に更新する場合のみに該当します。

LiveCycle Configuration Manager を使用して Content Services を設定するときは、コンテンツ保存場所のルートディレクトリを指定する必要があります。LiveCycle ES2 または LiveCycle ES2 Service Pack 1 では、LiveCycle Configuration Manager によって、コンテンツ保存場所のルートディレクトリの下にサブディレクトリ lccs_data が自動的に作成されます。例えば、Windows マシンで C:\test\ をコンテンツ保存場所のルートディレクトリとして指定した場合、LiveCycle Configuration Manager では、lccs_data サブディレクトリが作成され、Content Services EAR ファイル内でパスが C:\test\lccs_data\ と指定されます。lccs_data は、LiveCycle Configuration Manager の GUI または コマンドラインインターフェイスを使用してこのサブディレクトリを指定していない場合にのみ追加されます。

この動作は、LiveCycle ES2 Service Pack 2 で、元に戻されました。現在、LiveCycle Configuration Manager では、コンテンツ保存場所のルートディレクトリの値を、LiveCycle Configuration Manager の GUI またはコマンドラインインターフェイスで指定されているとおりに取得します。したがって、LiveCycle ES2 Service Pack 2 に更新して Content Services EAR ファイルを再デプロイすると、LiveCycle はコンテンツ保存場所のルートディレクトリのパスを見つけることができず、Content Services EAR のデプロイメントが失敗する場合があります。

デプロイメントの失敗を回避するには、LiveCycle ES2 Service Pack 2 用に LiveCycle Configuration Manager の GUI またはコマンドラインインターフェイスを使用して Content Services EAR ファイルを設定するときに、lccs_data をコンテンツ保存場所のルートディレクトリに追加する必要があります。

[参照番号 2608923, 2643357] - Windows 7 クライアントから Content Services リポジトリへの WebDAV 接続がサポートされていない - WebDAV プロトコルを使用して、Windows 7 クライアントから Content Services リポジトリへ接続することはできません。

[参照番号 2688938] - PDF Generator が LiveCycle ES3 の一部としてインストールされていない場合、Microsoft Office 2007 のファイル (PPTX、DOCX、XLSX など) に対して、コンテンツベースの検索が機能しません。

[参照番号 2442397] - ローカライズされたヘルプで「目次に表示」アイコンをクリックしたときに、現在開いているトピックが目次ウィンドウでハイライト表示されません。

[参照番号 2586923] - スペース内に 10,000 個を超えるドキュメントが存在する場合、Contentspace でそのスペースを参照したときに、一部のドキュメントが表示されないことがあります。 [

[参照番号 2664780] - AssetManager を使用して作成されたオブジェクトは、ContentSpace を使用して移動したり削除したりしないでください。代わりに、AssetManager の API を使用して、移動または削除してください。

[参照番号 2709008] - ContentSpace の検索では、検索文字列にトークナイザーまたはストップワードが含まれている場合、期待どおりの結果が返されません。以下で、トークナイザーおよびストップワードを含む文字列の検索動作について説明します。

トークナイザーを含む検索文字列の結果

ドット(.)、コロン(:)、一重引用符(')、空白スペース()、ハイフン(-)、アンダースコア()および二重引用符(")はトークナイザーです。

「a」と「b」が有効な文字列だと仮定して、次の表に、サンプルのトークナイザー「.」を含む検索文字列の検索結果動作をまとめます。

検索クエリー	検索結果	データ例	結果
a.b	a.b	a、a.b、a.c、b.a、ab、.b、a.	a.b
a.	「a」とトークナイザーを含むすべてのデータ、または「a」のみ	a、a.b、a.c、b.a、ab、.b、a.	a、a.b、a.c、b.a、a.
.b	「b」とトークナイザーを含むすべてのデータ、または「b」のみ	a、a.b、a.c、b.a、ab、.b、a.	a.b、b.a、.b
a	「a」とトークナイザーを含むすべてのデータ、または「a」のみ	a、a.b、a.c、b.a、ab、.b、a.	a、a.b、a.c、b.a、a.
a*b	「*」は、トークナイザーを文字セットの一部と見なさない	a、a.b、a.c、b.a、ab、.b、a.	ab

ストップワードを含む検索文字列の結果

「a」、「an」、「and」、「are」、「as」、「at」、「be」、「but」、「by」、「for」、「if」、「in」、「into」、「is」、「it」、「no」、「not」、「of」、「on」、「or」、「such」、「that」、「the」、「their」、「then」、「there」、「these」、「they」、「this」、「to」、「was」、「will」および「with」はストップワードです。

次の表に、サンプルのストップワード「A」を含む検索文字列の検索結果動作をまとめます。

検索クエリー	検索結果	データ例	結果
A or *a*	ストップワードを除くすべてのデータ	bac、bAc、A、Ac、cA	bac、bAc、A、c、cA
A* or a*/ *A or *a	先頭または末尾(クエリーに従う)が「A」であり、	bac、bAc、A、	それぞれAc

	」単独ではないデータ	Ac、cA	/cA
A	空	bac、bAc、A、 Ac、cA	空

注意:Contentspace の検索では大文字小文字は区別されません。

[参照番号 1837269] - ドキュメントがポリシーで保護されている場合、Content Services はそのドキュメントにインデックスを設定しません。

[参照番号 2436487] - Reader Extensions のサポートが指定されていないことを示す警告メッセージが表示されない - 臨時レビューを開始するとき、Reader Extensions のサポートが指定されていなかった場合、Contentspace はユーザーに通知しません。レビューの開始が終了した後にのみ通知が行われます。レビューで Reader Extensions のサポートが必要な場合、高度なオプション/Reader Extensions プロセスを適用しますを選択します。

[参照番号 2436729] - レビュー開始者のみへのコメント表示の制限が機能しない - レビューの作成時、レビュー開始者のみがすべてのコメントを表示できるように指定できます。このオプションは、開始者が新しいコメントを追加した場合、または他のレビュー担当者が記入したコメントに回答した場合には機能しません。こうした状況では、すべての参加者がレビュー開始者のコメントを表示できます。

[参照番号 2411312] - 検索で多数のユーザーが見つかった場合のエラー - Content Services で、結果に 500 人を超えるユーザーを返す検索条件を使用してユーザーを検索すると、「検索で一致するユーザーが多すぎます。対象を絞り込んで再検索してください。」というエラーが表示されます。例えば、ドメインに T で始まる名前を持つ 500 人以上のユーザーが属しており、T で始まる名前のすべてのユーザーを検索した場合に、このエラーが表示されます。結果を絞り込むために、より限定的な検索条件を使用してみてください。

Digital Signatures

[参照番号 2724659] - HSM

クライアントに対するパーティションの失効または割り当て後にサーバーの再起動が必要 - ハードウェアセキュリティモジュール(HSM)の新しい秘密鍵証明書プロファイルを作成した場合、LiveCycle サーバーを再起動するまでは、HSM クライアントに対して割り当てまたは失効されているパーティションが、LiveCycle 管理コンソールに反映されません。

[参照番号 1374301] - Adobe LiveCycle Digital Signatures 9 の Signature サービスは、ドキュメントの認証などの操作に対する入力として PDF データが埋め込まれている XDP ファイルをサポートしません。この操作を実行すると、署名サービスで PDFOperationException が発生します。この問題を解決するには、PDF ユーティリティ

サービスを使用して XDP ファイルを PDF ファイルに変換した後、変換後の PDF ファイルを署名サービスの操作に渡します。

出力

[参照番号 2612974] - フォームを統合するときに SignablePrintPDF 警告が発生する - 9.0 より古いバージョンの Adobe Reader を使用している場合、フォームに署名フィールドが含まれているかどうかにかかわらず、SignablePrintPDF 警告がログに記録されます。これは、デフォルトで、「Retain Signature Field」が「True」に設定されており、明示的にリセットする必要があるためです。

[参照番号 2590586] - generatePDFOutput メソッドに必要なコンテンツルート URI 構造が指定されない - アプリケーションからフォームを選択するとき、コンテンツルート URI パスは正確な構造になっている必要があります。例えば、SampleApp というアプリケーションからフォームを選択し、SampleApp/1.0/forms/Test.xdp に配置する場合、コンテンツルート URI は次のように指定する必要があります。

repository://authority/Applications/SampleApp/1.0/forms/ または
repository:/Applications/SampleApp(authority がヌルの場合)

そうすると、フォーム内の参照されているすべてのアセットのパスが、この URI に対して解決されます。

PDF Generator

[参照番号 3062008] - PDF Generator

では、ローカルプリンターの可用性オプションが有効になっているサーバーへの RDP はサポートされません。このようなサーバーにリモートデスクトッププロトコル(RDP)を使用してアクセスすると、サーバーのデフォルトプリンターが誤って変更されます。

[参照番号 2807147] - JIS X 0208-1990 で定義されていない日本語文字を変換できない - PDF Generator

を使用すると、ファイルを変換するときに使用するデフォルトのエンコードを指定できます。

1. 管理コンソールにログインし、サービス／PDF Generator／ファイルタイプごとの設定をクリックします。
2. 新しい設定を作成するか、既存の設定を開きます。
3. 「HTML から PDF」をクリックします。このセクションでは、ファイルを変換するときに使用するデフォルトのエンコードを選択できます。日本語(EUC-JP) または日本語(JIS)を選択すると、HTML から PDF

ページを使用するときに、一部の文字が変換されません。これは、PDF Generator で変換できるのは、JIS X 0208-1990 で定義されている文字だけであるからです。

Process Management

[参照番号 2901967] - Adobe LiveCycle Process Management 10(以前の Adobe LiveCycle Process Management)の一部として提供された Workspace API では、`lc.procmgmt.ui.endpoint` パッケージが `lc.procmgmt.ui.startpoint` という名前に変更されています。また、パッケージ内のすべてのクラス名には、Endpoint ではなく、Startpoint という接頭辞が付いています。例えば、`EndpointCardRenderer` というクラス名は `StartpointCardRenderer` に変更されています。

[参照番号 3152658] - LiveCycle 2.5 以前から LiveCycle ES3 へのアップグレードを実行した後に、一部のプロセスが LiveCycle Workspace に表示されない場合があります。これらのプロセスを復元するには、不足しているプロセスを再びデプロイしてください。

[参照番号 3144070] - LiveCycle 2.5 以前から LiveCycle ES3 へのアップグレードを実行する前に、リスト割り当てを使用するすべてのプロセスをアップデートしてください。これらのプロセスは、リストをリスト配列の最初の要素に割り当てる代わりに、添付ファイルのリストをリスト変数に割り当てる必要があります。例えば、すべてのリスト割り当て `outList[1] = inList` を `outList = inList` にアップデートします。

[参照番号 #3165057] - 管理者が LiveCycle 管理コンソールにログインしたときに、LiveCycle Workspace にログインしていたユーザーがその瞬間にログアウトされてしまうことがたまにあります。さらに、例外「`java.lang.IllegalStateException: invalidate: Session already invalidated`」が `server.log` ファイルに追加されます。この問題は、ユーザーが同じブラウザのタブを使用して LiveCycle 管理コンソールと LiveCycle Workspace にログした場合に発生します。

Rights Management

[参照番号 3102615] -
ポリシーで保護されたドキュメントをオフライン表示用に同期する際のパフォーマンスの強化:

あるユーザーアカウントに対して、ポリシーで保護されたドキュメントをオフライン表示用に同期する場合、Rights Management では、そのユーザーの特定のドキュメントに

関するライセンスとポリシーが同期されます。これにより、そのユーザーは、同期されたドキュメントにはオフラインでのみアクセスできます。

LiveCycle ES3 より前は、あるユーザーアカウントに対して、ポリシーで保護されたドキュメントをオフライン表示用に同期する場合、Rights Management では、すべてのポリシーとライセンスが同期されたので、ライセンスされたすべてのドキュメント（オフライン表示用に同期されないドキュメントも含む）にユーザーがアクセスできました。

[参照番号 3011415, 3011435, 3011444, 3011425, 3011457, 3011402] - 次の Rights Management イベントは、イベントリストに誤って記録されます（イベントリストを表示するには、管理コンソールでサービス/Rights Management/イベントをクリック）。

- Rights Management ロールを割り当てられていないユーザー A と Rights Management End User ロールを割り当てられたユーザー B がいるとします。A と B が連続してログインしようとする、予測どおりに、B のみが正常にログインできます。ただし、LiveCycle イベントリストには、A のログインイベントが成功として誤って記録されるのに対して、B がログインに成功したことは記録されません。
- Rights Management ポリシーで保護されたドキュメントに対して「低解像度の印刷」オプションを選択した場合でも、イベント「高解像度の印刷」が誤ってイベントリストに表示されます。
- 匿名ユーザーがユーザーとして設定されている Rights Management ポリシーでドキュメントが保護されている場合、イベント「ドキュメントの変更」は、匿名ユーザーによって開始されたとして、誤って記録されます。このイベントは、実際に登録ユーザー（例えば、Akira Tanaka）によってポリシーがドキュメントに割り当てられた場合でも、匿名ユーザーに割り当てられます。
- 許可されていないユーザーが *revokeLicense*、*unrevokeLicense* または *changeLicensePolicy* 操作の呼び出しに失敗しても、失敗したイベントは記録されません。
- Rights Management ポリシーの状態を非匿名ユーザーポリシーから匿名ユーザーポリシーに切り替えるための *changeLicensePolicy* Web サービス呼び出しに失敗した場合、イベントは記録されません。
- Rights Management ポリシーを使用して保護されたドキュメントに電子署名が追加されると、「ドキュメントの表示」イベントは 2 回記録されます。

[参照番号 2758287] - Rights Management 9 によって保護されている PDF ファイルを Acrobat 9 または Acrobat X で開くことができない - Rights Management 9 (どのサービスパックも適用されていない) によって保護されている PDF ファイルを Acrobat 9 または Acrobat X で開くと、次のエラーメッセージが表示されます。

「この操作の実行中にエラーが発生しました。この問題が解決されない場合は、管理者にお問い合わせください。」

この問題は、Rights Management 9 SP1 または SP2 (9.0.0.1 または 9.0.0.2) で保護された PDF ファイルでは発生しません。

[参照番号 2442835] - Rights Management で Flash に基づいたページの自動テストを有効にする - Adobe Rights Management UI(新規ポリシーページなど)の一部のページは Adobe Flash に基づいています。QuickTest Professional を使用して作成されたオートメーションでこれらのページを使用するには、次の手順を実行します。

Administration Console の Rights Management のページで QuickTest Professional のオートメーションを有効にするには:

1. Administration Console にログインします。
2. サービス/Rights Management をクリックします。
3. ブラウザーのアドレスバーで、URL を `http://[server]:[port]/edc/admin/disableQTP` に変更し、Enter キーを押します。これによって、現在のユーザーセッションで QTP オートメーションを使用できるようになります。
4. このユーザーセッションの QTP オートメーションを無効にするには、`http://[server]:[port]/edc/admin/disableQTP` に移動します。

Rights Management エンドユーザー Web アプリケーションで QuickTest Professional のオートメーションを有効にするには:

1. Rights Management エンドユーザー Web ページにログインします。
2. ブラウザーのアドレスバーで、URL を `http://[_server_]:[_port_]/edc/enableQTP` に変更し、Enter キーを押します。これによって、現在のユーザーセッションで QTP オートメーションを使用できるようになります。
3. このユーザーセッションの QTP オートメーションを無効にするには、`http://[_server_]:[_port_]/edc/admin/disableQTP` に移動します。

[参照番号 3009305] - 透かしのタイプとして現在の日付を使用する動的な透かしを持つポリシーでドキュメントを保護する場合、Rights Management サーバーではなく、クライアントマシンのシステムの日付が透かしのテキストとして適用されます。

[参照番号 3005453] - 動的な透かしが適用されている保護されたドキュメントを Acrobat X を使用して表示する場合、透かしの位置が背景に指定されていても、透かしは常に前景(ドキュメントの上)に表示されます。

Connector for IBM FileNet

[参照番号3172677] - Microsoft Windows で、IBM FileNet クライアント インストール ディレクトリのパスに空白が含まれている場合、アプリケーション サーバーは起動に失敗します。この既知の問題を解決するには、ディレクトリパスに[短いファイル名 \(SFN\)](#)を使用します。例えば、`-Dwasp.location="C:/Program Files (x86)/IBM/FileNet/wsi"` の代わりに、`-Dwasp.location= C:/Progra~1/IBM/FileNet/wsi` を使用します。

Workbench

[参照番号 2337797] - 短時間のみ有効なプロセスが、重複する要素を含んでいる XML 出力変数を返す場合は、このプロセスの起動が失敗します。この問題には、2 つの解決策があります。

1. * --Xss2m* オプションを含むように **workbench.ini** ファイルとアプリケーション サーバーの起動スクリプトを変更して、サーバーを再起動します。
2. プロセスを「長期間有効なプロセス」に変換し、変数を「出力」としてマークしないようにします。

[参照番号 2854312] -

プロセスデザイナーでは、マルチバイト文字を使用してアクティビティの名前を変更することはできません。この問題を解決するには、アクティビティのラベルをクリックし、マルチバイト文字をコピーして、そのラベルに直接貼り付けるか、プロセスプロパティビューでアクティビティの名前を変更します。

[参照番号 2722267] - 潜在的なデータ損失の回避 - Workbench を使用して LiveCycle サーバーにログインすると、<servername>_LC8_Project という名前のフォルダーが C:\Users\<user_name>\Workbench 10.0\ ディレクトリに作成されます。潜在的なデータ損失を回避するには、このフォルダーの内容を操作しないでください。

[参照番号 2752580] - LCA を移行した後にスタートポイントが失われる - Archive Migration Tool を使用して、カスタマイズされたスタートポイント (EJB および SOAP スタートポイント以外) を持つプロセスが含まれている LCA を移行するとき、プロセスダイアグラムにスタートポイントが示されなくなります。スタートポイントを手動で追加し再設定する必要があります。

[参照番号 2809255] - DSC を更新した後、Workbench で DSC が変更されていないと表示されるのを防ぐために、プロパティエディターを更新します。com.adobe.workbench.unsupported.propertyeditor.cache.persist プロパティの値を false に設定するように、Workbench.ini ファイルを変更することもできます。このように変更すると、キャッシュが保持されなくなり、プロパティエディターが最新の状態になります。

[参照番号 2917377] - 電子メール通知に含まれるリンクが機能しない - Workspace の電子メール通知に含まれるリンクを 2 度目にクリックしたとき、Workspace からログアウトしたばかりであると、タスクが開きません。この状況は、IBM HTTP Server をロードバランサーとして実行している WebSphere クラスタで発生します。

[参照番号 2833086] - Workbench Xpath Builder の最適な画面解像度 - Windows の画面解像度が 800 x 600 ピクセルの場合、Xpath Builder の画面は空白になります。この問題を解決するには、解像度を 1024 x 768 ピクセルに変更します。

[参照番号 2898758] - データモデル用の DSC を生成するとき NullPointerException が発生する - Workbench でデータモデル用の DSC を生成するとき、WSDL

サービス操作の名前に「-」(ハイフン)が含まれていると、*java.lang.NullPointerException*が発生します。回避策として、データモデルを作成したら、WSDL サービス操作の名前から「-」(ハイフン)を削除した後で、DSC を生成します。

[参照番号 2720930] - Workspace に初めてログインしたユーザーに、Assign Multiple Tasks のタスクが表示されません。これが発生するのは、人間中心のプロセスからユーザーに割り当てられたタスクに Assign Multiple Tasks 操作 (User 2.0 サービス) が含まれていて、これらのユーザーが参加者として複数回割り当てられている場合です。この人間中心のプロセスを次に実行すると、ユーザーに割り当てられているタスクは期待どおりに表示されません。

例えば、プロセス A が、プロセス内の Assign Multiple Tasks 操作でユーザー 1 を 2 回割り当てたとします。ユーザー 1 が Workspace に初めてログインしたとき、プロセス A から割り当てられたタスクは表示されません。プロセス A を再度実行すると、ユーザー 1 のタスクリストにタスクが表示されます。

この問題を緩和するには、Workspace ユーザーが Workspace にログインしてからタスクを割り当てるか、Assign Multiple Tasks 操作で 1 人の参加者を複数回追加しないようにします。

[参照番号 2700334] - 1 台のコンピューターで Workbench のインスタンスを複数実行すると、コンピューターがハングします。別々のユーザーのプロファイルで実行する場合であっても、同じコンピューター上で Workbench のインスタンスを複数実行することはできません。

[参照番号 2698682] - Workbench で、ファイルシステムに対するリンクファイルを作成できない - Workbench で、次の手順を実行すると、「Project '<Name of connected server>' is mapped to repository type 'com.adobe.livecycle.lcteam' which does not support linked resources.」というエラーが発生します。

1. File/New/Other を選択します。
2. General/File を選択します。
3. New File ダイアログボックスの「File Name」ボックスに、test.txt などの名前を入力します。
4. 「Advanced」をクリックして「Link To File In The File System」を選択します。

ファイルシステムに対してファイルを直接リンクすることはできません。

[参照番号 2590089] - New (アセット) ウィザードに誤ったフォルダー構造が表示される - Workbench で、タイプが「Other」のアセットを作成しているとき (File/New/Other)、「Enter Or Select The Parent Folder」ボックスに、Workbench アプリケーションビューではなく、コンピューターのファイルシステムに対応するツリー構造が表示されます。

[参照番号 2459254] -

参照されるサブプロセスが以前のバージョンのアプリケーションを指す - 既存の

アプリケーションの新しいバージョンを作成すると、新しいバージョンでメインプロセスはサブプロセスを正しく指します。ただし、新しいバージョンのアプリケーションの更新後、メインプロセスは元のバージョンのアプリケーションのサブプロセスを正しく参照しません。プロセスを実行するには、この参照を手動で更新する必要があります。

[参照番号 2450779] - コピーされたアセットの参照が古い場所を指す - 別のアセットを参照するアセットが異なる場所(別のフォルダまたはアプリケーション)にコピーされた場合、その参照は古い場所にあるアセットを指したままです。例えば、元々同じアプリケーションまたはフォルダにあったドキュメントを参照する変数を持つプロセスが、参照されるドキュメントが存在しない新しいフォルダまたはアプリケーションにコピーされた場合、実行時に参照されるドキュメントが見つからないので、そのプロセスはエラーになります。

この問題を回避するには、アセットを新しい場所にコピーした後、既存の参照をすべて更新します。

[参照番号 2443017] - LiveCycle の異なるバージョンのアセットを同じアプリケーションで使用する - 読み込まれた LiveCycle ES (8.x) のアセットと LiveCycle ES2 で作成されたアセットを同じアプリケーションに含めることはできません。同じアプリケーションに含めた場合、アプリケーションのデプロイと実行がある特定の状況の下で失敗する可能性があります。

[参照番号 2446602] - 変数を使用してリモートアセットを参照する - ドキュメント変数は、別のアプリケーションに含まれるリモートアセットを参照するプロセスの中で使用されます。この変数が入力変数としてマークされており、リモートアセットにアクセスするために必要な権限をユーザーが持っていない場合、アプリケーション内のステップがエラーになります。この問題を解決するには、必要な権限をユーザーに割り当てるか、変数を入力変数にしないようにします。

Workspace

[参照番号 2476085] - Internet Explorer のズームレベルの設定が 100 % 以外の場合、Workspace でフォームが適切に表示されない - Microsoft Internet Explorer のズームレベルは、表示／拡大をクリックし、パーセンテージのオプションを選択して設定できます。

100 % 以外のズームレベルオプションを選択すると、フォームは相対位置を失い、Workspace の外側に表示されます。

この問題を回避するには、他のブラウザを使用するか、ズームレベルを 100 % のままにします。

Assembler サービス

[参照番号 2536870] - 証明書削除用の Assembler サービスで通貨記号が削除される - Assembler サービスで、生成される PDF ドキュメントから証明書を削除する DDX を処理するときに、Signature サービスが呼び出されます。処理対象のドキュメントで Acrobat 9 の互換性を有効にするように Signature サービスが設定されている場合(デフォルト設定)、元のドキュメントにある通貨記号(\$ や ¢ など)が、処理後のドキュメントでは削除されます。このエラーに対する既知の回避策はありません。

電子メールプロバイダー

[参照番号 1569980] - 電子メールプロバイダーを使用した Generate PDF サービスまたは Distiller サービスの呼び出し - 電子メールプロバイダー宛の 1 つの電子メールメッセージに含まれる添付ファイルとして複数のドキュメントを送信した場合、Generate PDF サービスまたは Distiller サービスでは、1 つのドキュメントしか変換されません。

Launchpad

[参照番号 2905155] - Launchpad AIR アプリケーションの LiveCycle ES2 から LiveCycle ES3 へのアップグレードは機能しません。この問題は、パッチが適用された Launchpad ES2 SP2 アプリケーションでのみ発生します。回避策として、既にインストールされている Launchpad AIR アプリケーションを手動でアンインストールし、新しい Launchpad アプリケーションをインストールします。

マニュアル

Adobe LiveCycle ES3 製品マニュアルは、アドビの Web サイト (www.adobe.com/go/learn_lc_documentation_10_jp) から入手できます。

Adobe データモデリングテクノロジーリファレンス

[参照番号 2467782] - アプリケーションモデルを操作しているとき、文字列に対して長さ属性を設定できますが、コレクション内の文字列に対しては、Modeler ユーザーインターフェイスにこのオプションがあったとしても設定することはできません。コレクション内の文字列に対して長さ属性を設定した場合、そのモデルは無効になります。

アプリケーションモデリングテクノロジーリファレンスのドキュメントには、コレクション内の文字列に対して長さ属性を設定できないことが記述されていません。

[参照番号 2927273] - Guides(非推奨) API と AIR 1.0 の誤った対応が記載されている - Guides(非推奨)で提供される API は、Adobe AIR 2.0 をサポートしますが、「[Adobe Flash](#)

[Platform 用 ActionScript 3.0 リファレンス](#)」では、AIR 1.0 をサポートするように誤って記載されています。この問題は、次のパッケージで発生します。

- ga.controls
- ga.layouts
- ga.model
- ga.uiComponents
- ga.util
- ga.views
- ga.wrappers
- com.adobe.guides.il8n
- com.adobe.guides.spark.components.skins
- com.adobe.guides.spark.components.skins.mx
- com.adobe.guides.spark.headers.components
- com.adobe.guides.spark.headers.skins
- com.adobe.guides.spark.layouts.components
- com.adobe.guides.spark.layouts.skins
- com.adobe.guides.spark.navigators.components
- com.adobe.guides.spark.navigators.renderers
- com.adobe.guides.spark.navigators.skins
- com.adobe.guides.spark.util
- com.adobe.guides.spark.wrappers.components
- com.adobe.guides.spark.wrappers.skins
- com.adobe.guides.submit

[参照番号 2927703] - Workspace API と AIR 1.0 の誤った対応が記載されている - Adobe LiveCycle Process Management 10 で提供される API は、Adobe AIR をサポートしませんが、「[Adobe Flash Platform 用 ActionScript 3.0 リファレンス](#)」では、AIR 1.0 をサポートするように誤って記載されています。Workspace API は Adobe AIR をサポートしません。この問題は、次のパッケージで発生します。

- lc.foundation
- lc.foundation.domain
- lc.foundation.events
- lc.foundation.ui
- lc.foundation.util
- lc.preloader
- lc.procmgmt
- lc.procmgmt.commands
- lc.procmgmt.domain
- lc.procmgmt.events
- lc.procmgmt.formbridge
- lc.procmgmt.impl
- lc.procmgmt.ui.attachments
- lc.procmgmt.ui.controls
- lc.procmgmt.ui.controls.card
- lc.procmgmt.ui.controls.renderer
- lc.procmgmt.ui.help
- lc.procmgmt.ui.layout

- lc.procmgmt.ui.presentationmodel
 - lc.procmgmt.ui.process
 - lc.procmgmt.ui.search
 - lc.procmgmt.ui.startpoint
 - lc.procmgmt.ui.task
 - lc.procmgmt.ui.task.form
 - lc.procmgmt.ui.task.form.commands
 - lc.procmgmt.ui.tracking
-

この製品をインストールすることにより、お客様は、Adobe 使用許諾契約条項の他に、製品のドキュメント内および www.adobe.com/go/thirdparty に記載されているサードパーティ利用条件に同意したことになります。Adobe はお客様がこれらのサードパーティ利用条件をお読みになることを推奨します。

サードパーティソフトウェアに関する注意事項

Adobe LiveCycle Forms 10 は cssparser を使用して、HTML 表現でユーザーによって提供されるカスタム CSS を読み込みマージします。cssparser CSS2 文法に基づいており、JavaCC (Java Compiler Compiler) を使ってビルドされています。Forms はある Mozilla ブラウザー固有のスタイルを生成します。このスタイルでは、セレクターはハイフンで始まりますが (たとえば、-moz-xxx) CSS2 文法はこれを許していません。このため、セレクターがハイフンで開始できるように cssparser の文法を変更し、JavaCC を使用してこのパーサーをリビルドしています。

cssparser とこの変更の詳細については、技術ノート (<http://kb.adobe.com/selfservice/viewContent.do?externalId=kb403308&sliceId=1>) を参照してください。

Adobe LiveCycle Output 10 は LGPL ライブラリへの変更が必要でした。とくに、JCIFS は LiveCycle ES2 用に変更されました。

これらの変更の詳細については、技術ノート (<http://kb.adobe.com/selfservice/viewContent.do?externalId=kb404133&sliceId=1>) を参照してください。

リリースノート -- Adobe LiveCycle ES3、2012 年 3 月 13 日